

2014年度 第3四半期 決算説明会

富士フイルムホールディングス株式会社

2015年1月28日

本資料における業績予想及び将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は、様々な要因によりこれらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おきください。

本日はお忙しいところお集まりいただき有難うございます。

富士フイルムホールディングス株式会社 2014年度第3四半期決算について、
ご説明させていただきます。

2014年度第3四半期 業績 (2014年4月～2014年12月)

(単位:億円)

	2013年度 9ヵ月累計	2014年度 9ヵ月累計	対前年度
売上高	17,744 100.0%	18,152 100.0%	408 +2.3%
営業利益	996 5.6%	1,244 6.9%	248 +24.9%
税金等調整前 四半期純利益	1,142 6.4%	1,532 8.4%	390 +34.1%
当社株主帰属 四半期純利益	625 3.5%	939 5.2%	314 +50.2%
1株当たり 当社株主帰属 四半期純利益	129.68円	194.73円	65.05円
為替 :米ドル :ユーロ	99円 132円	107円 140円	8円安 8円安

*営業利益 増減要因(対前年度) 為替:+75億円、原材料:-8億円

2

2014年度第3四半期は、デジタルカメラの高級機種へのシフトに伴う販売台数減少による売上減や、フラットパネルディスプレイ材料事業の売上減があったものの、フォトイメージングやメディカルシステム、ドキュメント事業などで売上を伸ばし、連結売上高は前年比408億円増の1兆8,152億円となりました。

営業利益は、各事業における収益性の改善や減価償却方法の変更に伴う影響などにより、前年比24.9%増の1,244億円となりました。

株式会社ジャパン・ティッシュ・エンジニアリングの連結子会社化に伴う評価益212億円を営業外収益に計上したことなどにより、税金等調整前四半期純利益は、前年比34.1%増の1,532億円、当社株主帰属四半期純利益は、前年比50.2%増の939億円となりました。

1株当たりの当社株主帰属四半期純利益は、194円73銭となりました。

第3四半期 セグメント別:連結売上高/営業利益

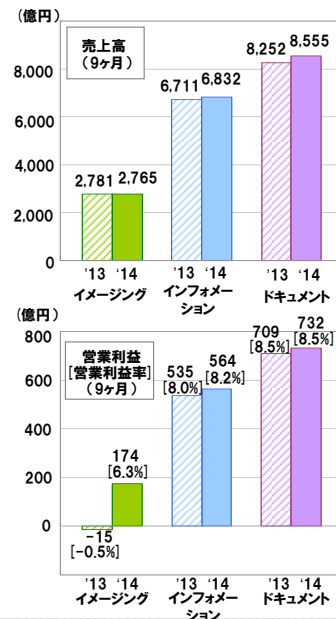
(単位:億円)

売上高	9ヵ月累計		対前年度
	2013年度	2014年度	
イメージング	2,781	2,765	-16 (-0.5%)
インフォメーション	6,711	6,832	121 (+1.8%)
ドキュメント	8,252	8,555	303 (+3.7%)
合計	17,744	18,152	408 (+2.3%)

*セグメント間取引消去後

(単位:億円)

営業利益	9ヵ月累計		対前年度
	2013年度	2014年度	
イメージング	-15	174	189 (黒字化)
インフォメーション	535	564	29 (+5.5%)
ドキュメント	709	732	23 (+3.3%)
全社/連結調整	-233	-226	7
合計	996	1,244	248 (+24.9%)



続いて、セグメント別の状況についてご説明します。

イメージング ソリューション部門の売上高は、
前年比0.5%減の2,765億円、
営業利益は対前年189億円の大幅増となり、174億円の黒字となりました。

インフォメーション ソリューション部門の売上高は、
前年比1.8%増の6,832億円、
営業利益は前年比5.5%増の564億円となりました。

ドキュメント ソリューション部門の売上高は、
前年比3.7%増の8,555億円、
営業利益は前年比3.3%増の732億円となりました。

第3四半期 セグメント別 概況

(単位:億円)

■ イメージング ソリューション

売上高	前年比	営業利益	前年比
2,765	-16 (-0.5%)	174	189 (黒字化)

- ・ フォトイメージングでは、インスタントカメラ、スマートフォン用プリンター、チェキフィルムなどのインスタントフォトシステムの販売が全世界で好調に推移したことや、「Year Album」などの付加価値プリントビジネスの拡大で、売上が増加。
- ・ 電子映像では、コンパクトデジタルカメラのラインアップ縮小により売上減少。プレミアムデジタルカメラ「Xシリーズ」の販売は好調に推移。
- ・ 光学デバイスでは、車載カメラ用レンズの販売は堅調に推移したものの、スマートフォン用カメラモジュールの販売が減少。

デジタルカメラ等の売上減により減収となったものの、
インスタントフォトシステムの販売好調と
デジタルカメラの大幅な損益改善により黒字化

4

まずイメージング ソリューション部門についてご説明します。

フォトイメージングでは、インスタントカメラ、スマートフォン用プリンター、チェキフィルムなどのインスタントフォトシステムの販売が全世界で好調に推移したことや、「Year Album」などの付加価値プリントビジネスの拡大で、売上が増加しました。

電子映像では、コンパクトデジタルカメラのラインアップ縮小により売上が減少しましたが、プレミアムミラーレスカメラ「FUJIFILM X-T1」などXシリーズの販売は好調に推移しました。

光学デバイスでは、スマートフォン用カメラモジュールの販売は減少しましたが、車載カメラ用レンズの販売は堅調に推移しました。

この結果、光学・電子映像事業合計で売上は減収となりました。

イメージング ソリューション部門は、デジタルカメラ等の売上減少により減収となったものの、フォトイメージング事業でのインスタントフォトシステムの販売好調とデジタルカメラの大幅な損益改善により黒字化しました。

第3四半期 セグメント別 概況

■ インフォメーション ソリューション

(単位:億円)

売上高	前年比	営業利益	前年比
6,832	121 (+1.8%)	564	29 (+5.5%)

- ・メディカルシステムでは、医療ITや超音波診断装置などの販売が好調に推移し売上が増加。医薬品はバイオ医薬品受託製造が堅調に推移したものの、国内の抗菌薬市場低調が続き全体では売上減少。
- ・グラフィックシステムでは、国内での消費税増税による駆け込み需要の反動影響を第2四半期以降に回復させ、売上増加。
- ・フラットパネルディスプレイ材料は、WVフィルムの受注減などにより売上は減少したが、テレビ向けにプレーンタック、VA用フィルムの販売が堅調に推移。
- ・記録メディアは、コンピューター用磁気テープの販売が堅調に推移し売上が増加。
- ・産業機材では工業用X線フィルムなどの販売は堅調だったが、感圧紙の販売減などにより売上減少。電子材料では幅広い製品の販売が各地域で伸長し、売上が大幅に増加。

フラットパネルディスプレイ材料の売上は減少したが
ヘルスケア、電子材料の好調や為替円安の効果もあり
増収増益

5

続いてインフォメーション ソリューション部門です。

ヘルスケアのうち、メディカルシステムでは、成長領域である医療ITや超音波診断装置などの販売好調により、売上が増加しました。

医薬品は、バイオ医薬品受託製造が堅調に推移したものの、国内で抗菌薬市場全体の低調が続き、売上は減少しました。

研究開発においては、マクロライド系抗菌剤「T-4288」が国内で第二相試験に入るなど、着実にパイプラインの開発を推進しています。

なお、エボラ出血熱への効果が期待されている「アビガン錠」については、フランス政府、ギニア政府による臨床試験が12月よりギニアの2ヶ所の拠点で実施され、治験対象者および希望する患者に投与されています。

グラフィックシステムでは、国内で消費税増税による駆け込み需要の反動影響を受けたものの第2四半期以降に挽回し、売上が増加しました。今後の市場成長が期待されているデジタルプリンティング機器などの拡販を進めています。

フラットパネルディスプレイ材料は、WVフィルムの受注減などにより売上は減少しましたが、液晶テレビ向けにプレーンタック、VA用フィルムの販売が堅調に推移しました。

記録メディアは、「BaFe(バリウムフェライト)磁性体」などの独自技術による高容量のコンピューター用磁気テープの販売が堅調に推移し、売上が増加しました。データアーカイブ分野における一層の売上拡大を目指していきます。

産業機材では、工業用X線フィルムなどの販売は堅調でしたが、総需要減に伴う感圧紙の販売減などにより、売上が減少しました。新規事業については、第3四半期より受注が増えてきております。電子材料では先端フォトレジストなど幅広い製品が各地域で好調だったことにより、売上が大幅に増加しました。

インフォメーション ソリューション部門は、フラットパネルディスプレイ材料事業の売上は減少したものの、ヘルスケア、電子材料の好調や為替円安の効果もあり、増収増益となりました。

第3四半期 セグメント別 概況

■ ドキュメント ソリューション

(単位:億円)			
売上高	前年比	営業利益	前年比
8,555	303 (+3.7%)	732	23 (+3.3%)

・国内、アジア・オセアニア地域及び米国ゼロックス社向け輸出のいずれも売上が増加。

- オフィスプロダクトは、アジア・オセアニア地域で売上が増加し増収。
- オフィスプリンターは、アジア・オセアニア地域及び米国ゼロックス社向け輸出の売上が増加し増収。
- プロダクションサービスは、国内はやや減収となったが、アジア・オセアニア地域で売上が増加し、全体としては前年並み。
- グローバルサービスは、富士ゼロックスがサービスを提供する国内及びアジア・オセアニア地域ともに売上が大きく増加。

・営業利益は、売上増に伴う粗利の増加とともに、経費効率化等が寄与し増益。

**全ての地域において販売が堅調に推移したことに加え、
経費効率化等が寄与し増収増益**

ドキュメント ソリューション部門については、

国内、アジア・オセアニア地域及び米国ゼロックス社向け輸出のいずれも売上が増加しました。

オフィスプロダクトは、5月より販売を開始したA3カラーローエンドモデル「DocuCentre SC2020」の販売台数が大きく伸びたアジア・オセアニア地域で売上が増加し、全体で増収となりました。

オフィスプリンターは、アジア・オセアニア地域及び米国ゼロックス社向け輸出の売上が増加し増収となりました。

プロダクションサービスは、国内はやや減収となりましたが、アジア・オセアニア地域で売上が増加し、全体としては前年並みで着地しました。

グローバルサービスは、富士ゼロックスがサービスを提供する国内及びアジア・オセアニア地域ともに売上が大きく増加しました。

このように全ての地域において販売が堅調に推移したことによる売上増に伴う粗利の増加とともに、経費効率化等が寄与し、増収増益となりました。

連結貸借対照表

(単位:億円)

	12年度 末	13年度 末	14年12月 末	対13年度 末		12年度 末	13年度 末	14年12月 末	対13年度 末
現金 及び現金同等物	4,454	6,046	6,979	933	長短社債 及び借入金	3,583	3,597	3,853	256
受取債権	5,889	6,368	6,546	178	支払債務	2,510	2,659	2,610	-49
棚卸資産	3,999	3,637	4,049	412	その他流動 固定負債	4,255	4,032	4,308	276
有価証券 その他流動資産	1,271	1,566	1,867	301	負債計	10,348	10,288	10,771	483
流動資産計	15,613	17,617	19,441	1,824	株主資本計	18,689	20,206	22,348	2,142
有形固定資産	5,461	5,303	5,357	54	非支配持分	1,559	1,776	2,283	507
営業権	4,122	4,231	5,107	876	純資産計	20,248	21,982	24,631	2,649
投資有価証券 その他資産	5,400	5,119	5,497	378	負債・純資産 合計	30,596	32,270	35,402	3,132
固定資産計	14,983	14,653	15,961	1,308					
資産合計	30,596	32,270	35,402	3,132					

	12年度 末	13年度 末	14年12月 末	対13年度 末
期末日 為替レート				
米ドル	94	103	121	18円安
ユーロ	121	142	147	5円安

7

次に、バランスシートについてご説明します。

2014年12月末時点の資産は、現金及び現金同等物の増加や為替の円安影響などにより、2014年3月末時点と比べ、3,132億円増の3兆5,402億円となりました。

負債は、社債および短期借入金が増加したことなどにより、483億円増の1兆771億円となりました。

株主資本は、2,142億円増加し2兆2,348億円となりました。

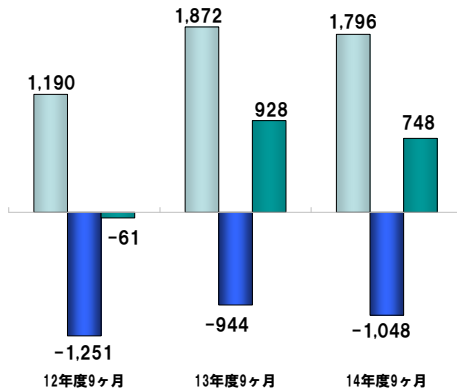
流動比率は、前期末に比べ17.5ポイント増の312.9%、負債比率は2.7ポイント減の48.2%、株主資本比率は0.5ポイント増の63.1%となり、資産の流動性及び資本構成の安定性をともに維持しております。

キャッシュ・フロー

(単位:億円)

- 営業活動によるキャッシュ・フロー
- 投資活動によるキャッシュ・フロー
- フリー・キャッシュ・フロー

(単位:億円)



	12年度 9ヶ月	13年度 9ヶ月	14年度 9ヶ月
四半期純利益	406	775	1,071
減価償却費	1,026	1,043	907
受取債権の増(-)減(+)	385	244	252
棚卸資産の増(-)減(+)	-178	-1	-156
営業債務の増(+)-減(-)	-308	-123	-228
未払法人税等他負債の増(+)-減(-)	-307	-84	-55
その他	166	18	5
営業活動によるCF	1,190	1,872	1,796
設備投資	-669	-574	-437
ソフトウェアの購入	-132	-166	-174
有価証券・投資有価証券等の売却・購入	95	-24	-193
その他	-545	-180	-244
投資活動によるCF	-1,251	-944	-1,048
フリー・キャッシュ・フロー	-61	928	748
営業活動によるCF+設備投資	521	1,298	1,359

8

続いて、キャッシュ・フローについてご説明します。

営業活動によるキャッシュ・フローは、四半期純利益の増加に加え、受取債権の減少などにより、1,796億円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の購入などにより、1,048億円の支出となりました。

この結果、フリー・キャッシュ・フローは、748億円のプラスとなりました。

以上で、2014年度第3四半期決算の説明とさせていただきます。

2014年度 連結業績予想 (2015年1月28日時点)

(単位:億円)

	2013年度	2014年度 (前回予想)	2014年度 (修正予想)	対前回予想	対前年度
売上高	24,400 100.0%	24,600 100.0%	24,800 100.0%	200 +0.8%	400 +1.6%
営業利益	1,408 5.8%	1,600 6.5%	1,700 6.9%	100 +6.3%	292 +20.7%
税金等調整前 当期純利益	1,572 6.4%	1,600 6.5%	1,900 7.7%	300 +18.8%	328 +20.9%
当社株主帰属 当期純利益	810 3.3%	850 3.5%	1,100 4.4%	250 +29.4%	290 +35.8%
1株当たり 当社株主帰属 当期純利益	168.07円	176.36円	228.15円	51.79円	60.08円
為替 :米ドル :ユーロ	100円 134円	100円 135円	110円 140円	10円安 5円安	10円安 6円安

*2014年度 営業利益 為替感応度 米ドル:10億円、ユーロ8億円

*なお、第4四半期の為替レートは、米ドル:115円、ユーロ:140円を想定しております。

9

次に、2014年度通期の業績予想について、ご説明いたします。

為替の円安が想定以上に進んでいることや、イメージングソリューションが想定を上回って推移していることから、業績予想を上方修正いたします。

売上高は、為替円安の効果などにより、前年比1.6%増の2兆4,800億円に修正いたします。

営業利益については、フォトイメージングの好調や、デジタルカメラの損益改善が順調に進んでいること、及び為替円安の効果により、前年比20.7%増の1,700億円に修正いたします。

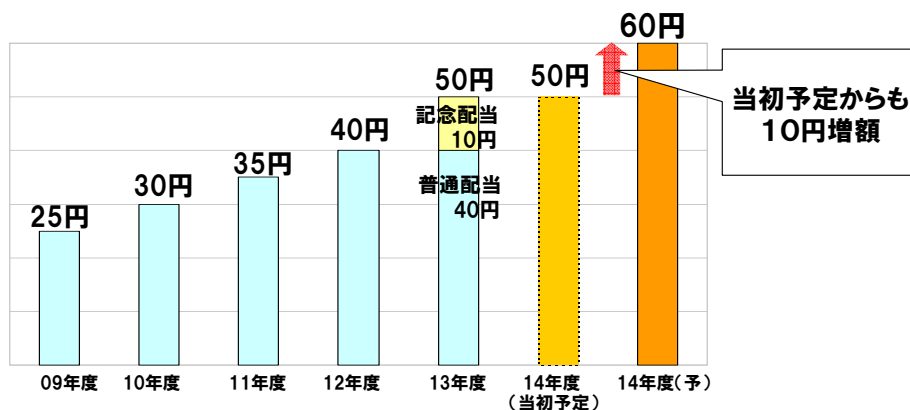
また株式会社ジャパン・ティッシュ・エンジニアリングの連結子会社化に伴う評価益を営業外収益として計上したことなどにより、税金等調整前当期純利益は、前年比20.9%増の1,900億円、当社株主帰属当期純利益は前年比35.8%増の1,100億円に上方修正いたします。

なお、第4四半期の為替レートはドル円を115円、ユーロ円を140円で想定しております。

株主還元

■配当金

2014年度の配当金は、前年の記念配当と合わせた50円から増配し60円を予定



■自社株買い実施

- ✓ 取得株式数(上限): 1,600万株(対 発行済株式総数※ 3.3%) ※自己株式を除く
- ✓ 取得価額(上限) : 500億円
- ✓ 取得期間 : 2015年1月29日～2015年7月31日

10

最後に、2014年度の株主還元についてご説明いたします。

配当金については、今年度の通期連結業績予想を上方修正することに伴い、株主還元方針を基に、期末配当予想を1株当たり10円増配の35円に修正いたしました。

これにより、中間配当金25円と合わせた年間配当金は1株当たり60円となる予定です。これは前年の記念配当と合わせた50円からも10円の増配となります。

また、株主還元の強化、資本効率の向上を図るとともに、将来の機動的な資本政策を可能とするため、取得株式数1,600万株、取得価額500億円を上限に、1月29日から7月31日までの期間で自社株買いを実施いたします。

以上、2014年度第3四半期決算、通期業績予想及び株主還元についてご説明いたしました。

ご静聴いただき、ありがとうございました。

2014年度第3四半期 決算説明会

参考資料

3Q/9ヶ月 業績

(単位:億円)

	3Q			9ヶ月		
	2013年度	2014年度	対前年度	2013年度	2014年度	対前年度
売上高	6,001 100.0%	6,323 100.0%	322 +5.4%	17,744 100.0%	18,152 100.0%	408 +2.3%
営業利益	422 7.0%	528 8.4%	106 +25.1%	996 5.6%	1,244 6.9%	248 +24.9%
税金等調整前 四半期純利益	517 8.6%	774 12.2%	257 +49.8%	1,142 6.4%	1,532 8.4%	390 +34.1%
当社株主帰属 四半期純利益	310 5.2%	533 8.4%	223 +71.8%	625 3.5%	939 5.2%	314 +50.2%
為替 :米ドル	101円	115円	14円安	99円	107円	8円安
:ユーロ	137円	143円	6円安	132円	140円	8円安

*営業利益 増減要因(9ヶ月 対前年度) 為替: +75億円、原材料: -8億円

12

<当スライドは配付資料です>

3Q/9ヶ月 業績

(単位:億円)

売上高	3Q			9ヶ月		
	2013年度	2014年度	対前年度	2013年度	2014年度	対前年度
イメージング	1,017	1,076	59 (+5.8%)	2,781	2,765	-16 (-0.5%)
インフォメーション	2,232	2,396	164 (+7.3%)	6,711	6,832	121 (+1.8%)
ドキュメント	2,752	2,851	99 (+3.6%)	8,252	8,555	303 (+3.7%)
合計	6,001	6,323	322 (+5.4%)	17,744	18,152	408 (+2.3%)

*セグメント間取引消去後

(単位:億円)

営業利益 [営業利益率]	3Q			9ヶ月		
	2013年度	2014年度	対前年度	2013年度	2014年度	対前年度
イメージング	39 [3.8%]	128 [11.9%]	89 (3.3倍)	-15 [-0.5%]	174 [6.3%]	189 (黒字化)
インフォメーション	217 [9.7%]	240 [10.0%]	23 (+11.0%)	535 [8.0%]	564 [8.2%]	29 (+5.5%)
ドキュメント	247 [8.9%]	235 [8.2%]	-12 (-4.9%)	709 [8.5%]	732 [8.5%]	23 (+3.3%)
全社/連結調整	-81	-75	6	-233	-226	7
合計	422 [7.0%]	528 [8.4%]	106 (+25.1%)	996 [5.6%]	1,244 [6.9%]	248 (+24.9%)

13

<当スライドは配付資料です>

3Q（3ヶ月）セグメント別 ハイライト

■ イメージング ソリューション

- インスタントフォトシステムの販売が引き続き好調で、フォトイメージングの売上が増加。
- コンパクトデジタルカメラのラインアップ縮小により販売台数は前年同期比で大幅に減少したものの、高級機種への拡販により収益性は大幅に改善。
- 光学デバイスはスマートフォン用カメラモジュールの販売が減少。

■ インフォメーション ソリューション

- メディカルシステムでは特に医療ITの売上が日本を中心に好調に推移。
医薬品は国内の抗菌薬市場が引き続き低調だったが、バイオ医薬品受託製造の受注は好調。
- フラットパネルディスプレイ材料は、液晶テレビ向けにVA用フィルム、IPS用フィルムの販売が堅調。
- 産業機材は、「エクスクリア」、太陽電池用バックシートなどの新規製品の受注が増加し、売上が増加。
電子材料は全体的に継続して販売が好調に推移。

■ ドキュメント ソリューション

- 売上は、オフィスプリンターがやや減少となったものの、オフィスプロダクト、プロダクションサービス、グローバルサービスでは増収となり、全体でも増収。
- 営業利益は、米ドル高による原価増等の影響のため減益となったものの、為替の影響を除くと増益。

<当スライドは配付資料です>

3Q/9ヶ月 業績

■ イメージング ソリューション

(単位:億円)

売上高	3Q			9ヶ月		
	2013年度	2014年度	対前年度	2013年度	2014年度	対前年度
フォトイメージング	631	738	107 (+16.9%)	1,634	1,827	193 (+11.8%)
電子映像	225	209	-16 (-6.9%)	630	549	-81 (-12.9%)
光学デバイス	161	129	-32 (-20.0%)	517	389	-128 (-24.6%)
光学・電子映像	386	338	-48 (-12.4%)	1,147	938	-209 (-18.2%)
合計	1,017	1,076	59 (+5.8%)	2,781	2,765	-16 (-0.5%)

*セグメント間取引消去後

(単位:億円)

営業利益 [営業利益率]	3Q			9ヶ月		
	2013年度	2014年度	対前年度	2013年度	2014年度	対前年度
イメージング	39 [3.8%]	128 [11.9%]	89 (3.3倍)	-15 [-0.5%]	174 [6.3%]	189 (黒字化)

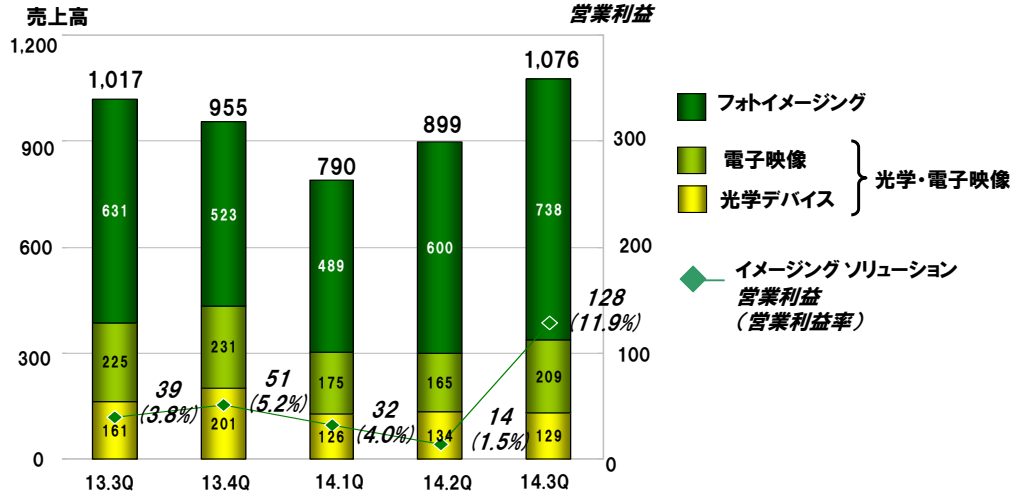
15

<当スライドは配付資料です>

セグメント別 四半期 売上高・営業利益 推移

■ イメージング ソリューション

(単位:億円)



*セグメント間取引消去後

16

<当スライドは配付資料です>

3Q/9ヶ月 業績

■ インフォメーション ソリューション

(単位:億円)

売上高	3Q			9ヶ月		
	2013年度	2014年度	対前年度	2013年度	2014年度	対前年度
ヘルスケア	879	961	82 (+9.4%)	2,598	2,696	98 (+3.7%)
グラフィックシステム	687	706	19 (+2.7%)	2,043	2,076	33 (+1.6%)
フラットパネル ディスプレイ材料	338	335	-3 (-0.9%)	1,090	982	-108 (-9.9%)
記録メディア	112	133	21 (+18.9%)	331	356	25 (+7.7%)
産業機材/電子材料他	216	261	45 (+20.3%)	649	722	73 (+11.1%)
合計	2,232	2,396	164 (+7.3%)	6,711	6,832	121 (+1.8%)

*セグメント間取引消去後

(単位:億円)

営業利益 [営業利益率]	3Q			9ヶ月		
	2013年度	2014年度	対前年度	2013年度	2014年度	対前年度
インフォメーション	217 [9.7%]	240 [10.0%]	23 (+11.0%)	535 [8.0%]	564 [8.2%]	29 (+5.5%)

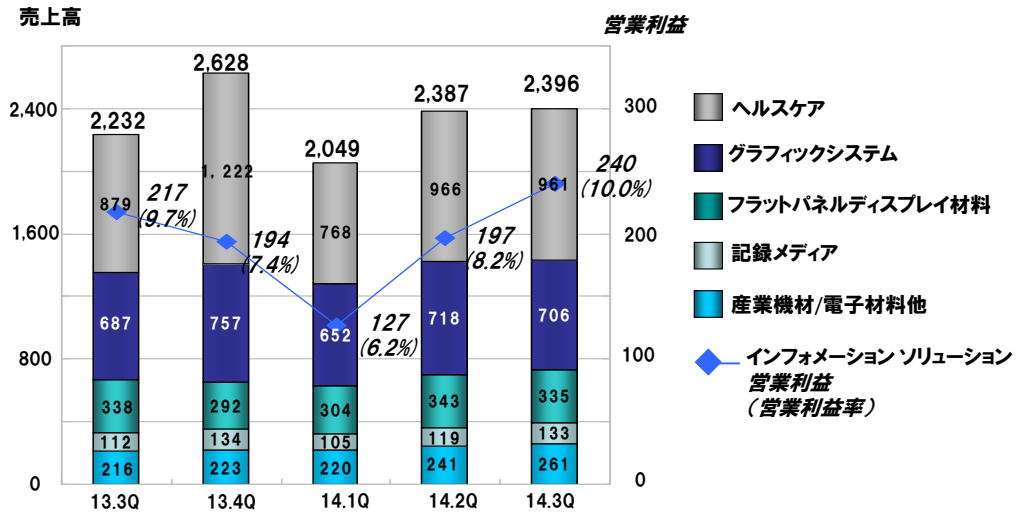
17

<当スライドは配付資料です>

セグメント別 四半期 売上高・営業利益 推移

■ インフォメーション ソリューション

(単位:億円)



*セグメント間取引消去後

<当スライドは配付資料です>

3Q/9ヶ月 業績

■ドキュメントソリューション

(単位:億円)

売上高	3Q			9ヶ月		
	2013年度	2014年度	対前年度	2013年度	2014年度	対前年度
オフィスプロダクト	1,259	1,280	21 (+1.7%)	3,836	3,870	34 (+0.9%)
オフィスプリンター	458	451	-7 (-1.4%)	1,333	1,351	18 (+1.3%)
プロダクションサービス	376	389	13 (+3.5%)	1,128	1,132	4 (+0.4%)
グローバルサービス	360	444	84 (+23.2%)	1,095	1,310	215 (+19.6%)
その他	299	287	-12 (-4.3%)	860	892	32 (+3.7%)
合計	2,752	2,851	99 (+3.6%)	8,252	8,555	303 (+3.7%)

*セグメント間取引消去後

(単位:億円)

営業利益 [営業利益率]	3Q			9ヶ月		
	2013年度	2014年度	対前年度	2013年度	2014年度	対前年度
ドキュメント	247 [8.9%]	235 [8.2%]	-12 (-4.9%)	709 [8.5%]	732 [8.5%]	23 (+3.3%)

19

<当スライドは配付資料です>

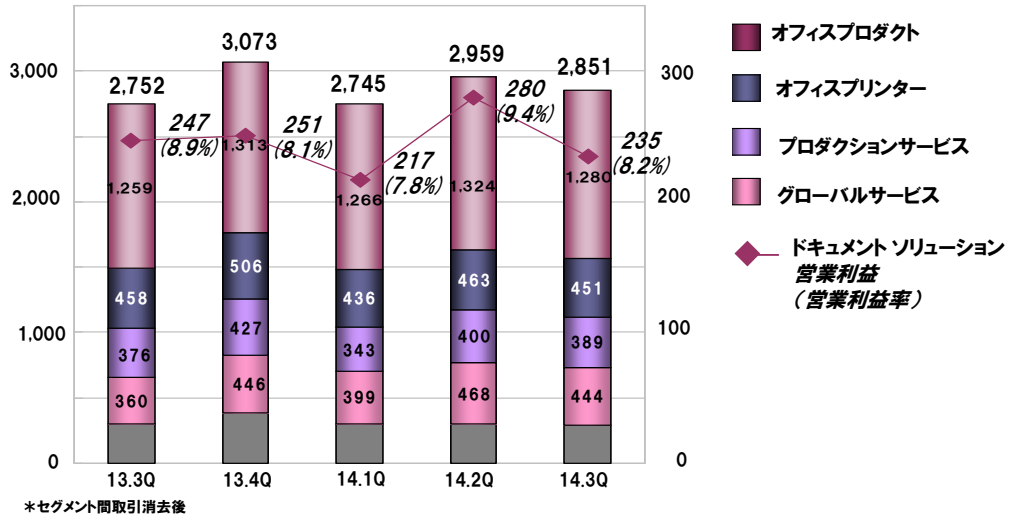
セグメント別 四半期 売上高・営業利益 推移

■ ドキュメントソリューション

(単位:億円)

売上高

営業利益



<当スライドは配付資料です>

国内・海外別連結売上高

(単位:億円)

	2013年度 9ヶ月		2014年度 9ヶ月		対前年度
	構成比 (%)		構成比 (%)		
日本	41.3%	7,322	40.4%	7,337	15 (+0.2%)
米州	18.5%	3,284	19.1%	3,463	179 (+5.4%)
欧州	12.0%	2,139	12.0%	2,178	39 (+1.8%)
内、中国	11.0%	1,951	11.1%	2,022	71 (+3.7%)
アジア他	28.2%	4,999	28.5%	5,174	175 (+3.5%)
海外	58.7%	10,422	59.6%	10,815	393 (+3.8%)
合計	100.0%	17,744	100.0%	18,152	408 (+2.3%)

21

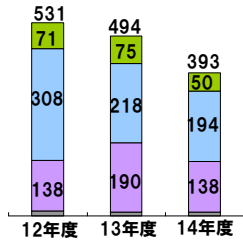
<当スライドは配付資料です>

設備投資、減価償却費

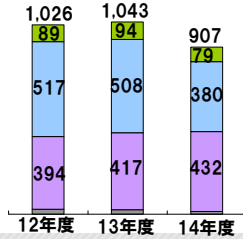
- イメージングソリューション
- インフォメーションソリューション
- ドキュメントソリューション
- コーポレート

(単位:億円)

設備投資(9ヶ月)



減価償却費(9ヶ月)



年度	3Q			9ヶ月			通期		
	2012	2013	2014	2012	2013	2014	2012	2013	2014 (予想)
イメージング	22	20	6	71	75	50	99	93	-
インフォメーション	75	77	48	308	218	194	399	324	-
ドキュメント	55	113	44	138	190	138	248	239	-
コーポレート	5	3	4	14	11	11	21	14	-
設備投資 ※	157	213	102	531	494	393	767	670	650
イメージング	35	34	31	89	94	79	133	135	-
インフォメーション	170	176	131	517	508	380	718	686	-
ドキュメント	141	144	149	394	417	432	531	561	-
コーポレート	11	9	5	26	24	16	33	32	-
減価償却費	357	363	316	1,026	1,043	907	1,415	1,414	1,200
有形固定資産の 減価償却費 ※	235	228	155	665	653	478	934	907	650

※ ドキュメントソリューション部門のレンタル機器を除く。

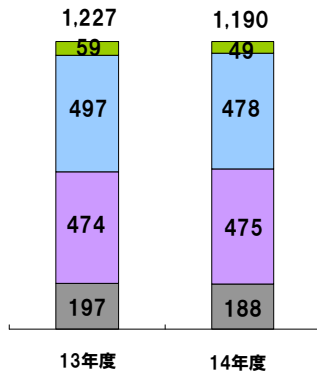
<当スライドは配付資料です>

研究開発費、販売費および一般管理費

- イメージングソリューション
- インフォメーションソリューション
- ドキュメントソリューション
- コーポレート

(単位:億円)

研究開発費(9ヶ月)



年度	3Q		9ヶ月		通期	
	2013	2014	2013	2014	2013	2014 (予想)
イメージング	18	15	59	49	61	-
インフォメーション	150	159	497	478	675	-
ドキュメント	157	158	474	475	634	-
コーポレート	67	60	197	188	274	-
研究開発費	392	392	1,227	1,190	1,644	1,650
<売上高比>	6.5%	6.2%	6.9%	6.6%	6.7%	6.7%
販売費及び 一般管理費	1,540	1,553	4,599	4,599	6,159	-
<売上高比>	25.7%	24.5%	26.0%	25.2%	25.2%	-

<当スライドは配付資料です>

為替、原材料価格、人員

為替

(単位:円)

	2013年度						2014年度				
	1Q	2Q	3Q	9ヶ月	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	9ヶ月	4Q (予想)
米ドル	99	99	101	99	103	100	102	104	115	107	115
ユーロ	129	131	137	132	141	134	140	138	143	140	140

*2014年度 営業利益 為替感応度 米ドル:10億円、ユーロ8億円

原材料価格 (平均)

(単位:千円/kg)

	2013年度						2014年度				
	1Q	2Q	3Q	9ヶ月	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	9ヶ月	4Q (予想)
銀	78	68	68	72	67	71	65	67	62	64	68

人員

(単位:人)

	2013.12末	2014.3末	2014.6末	2014.9末	2014.12末
連結	80,113	78,595	79,192	80,590	80,248

24

<当スライドは配付資料です>

パイプライン

開発番号	薬効・適応症	剤形	地域	開発段階	備考
T-705	抗インフルエンザウイルス剤	経口	日本	承認済み	2014年3月承認(アビガン錠 [®])
			米国	Ph III 実施中	国防省の助成金により臨床試験実施中
T-3811	キノロン系合成抗菌剤	経口	中国	承認申請中	国内はジェニナック錠として上市済み
T-2307	抗真菌剤	注射	米国	Ph I 終了	
T-817MA	アルツハイマー型認知症治療剤	経口	米国	Ph II 実施中	Alzheimer's Disease Cooperative Study (ADCS) と臨床試験実施中
			日本	Ph II 実施中	京都大学IPS細胞研究所との共同研究によりバイオマーカーの探索・特定を目指す
T-4288	マクロライド系抗菌剤	経口	日本	Ph II 実施中	
バイオ ITK-1	去勢抵抗性前立腺がん治療剤	注射	日本	P III 実施中	
FF-10501	再発・難治性骨髄異形性症候群治療剤	経口	日本	Ph I 実施中	
			米国	Ph I 実施中	
バイオ FF-21101	進行・再発非小細胞肺癌/脾がん治療剤 (Armed抗体)	注射	米/欧/日	非臨床試験実施中	MDアンダーソンがんセンター(米国)と臨床開発推進中
FF-10502	進行・再発脾がん/卵巣がん治療剤	注射	米/欧/日	非臨床試験実施中	
F-1311	前立腺がん診断薬(放射性医薬品)		日本	Ph I 実施中	

※持分法適用会社の協和キリン富士フィルムバイオロジクスのFKB327(アダリムマブバイオシミラー)は、米国、その他でPh III 実施中。FKB238(ヘバシマブバイオシミラー)は、欧州でPh I 実施中。

25

<当スライドは配付資料です>

参考情報

富士フィルムホールディングス 株主・投資家情報

<http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/index.html>

富士フィルムホールディングス アニュアルレポート2014

http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/annual_reports/2014/index.html

IRイベント資料

http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/ir_events/business_presentations/index.html

・事業説明会資料

- 2014年 9月 「医療ICT化における富士フィルムの挑戦」
- 2014年 11月 医薬品事業説明会

・カンファレンス資料

- 2014年 12月 野村インベストメントフォーラム 2014

富士フィルムってどんな会社？

<http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/individual/guidance/index.html>

26

<当スライドは配付資料です>